

# 柏未来創造志塾 1期第10回最終回(2017.5.9)

## 「ドラッカー「マネジメント」勉強会 第10回 仕事の生産性・やりがい

参考テキスト(出典):マネジメント エッセンシャル版 PFドラッカー ダイヤモンド社 2001年(1974)

### チェックイン

4月28日ねぎし塾第1回開催。

根岸社長より強烈なメッセージ・・・現在の自社の意識はどこか？

作業 →→→ 仕事 →→→ 志事

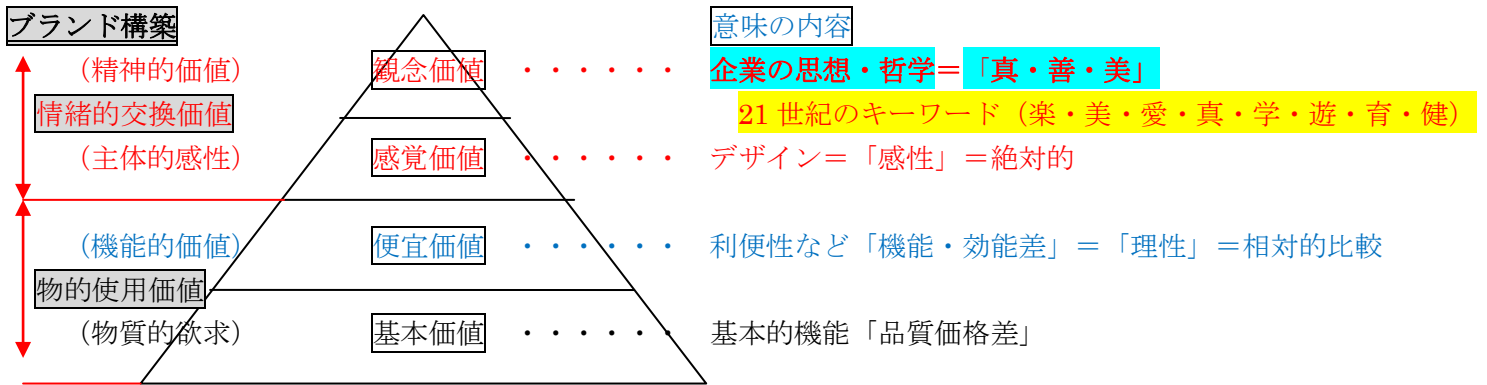
### 前回の振り返り

船井総研 商品の方程式=本体価値(機能)×価格×サービス(AF)×ブランド×情報×理念

19~20世紀 → → → → → → 21世紀 ⇒ ⇒ ⇒

### ビジネス成功(商売繁盛)の方程式

①  を明確にし ②  を絞り込み ③  のある企画を立案展開する！



### 3.11以降のビジネスのあり方 「共感企業より」

「売るのではなく、選ばれるようにする！」「共感の場」→→→「顧客の思いが先、商品たる服は後」  
自分の価値観を発信(価値観に共鳴=自然の心)・・・何を大切にしているか？

「量ではなく、質を大事にしている！」・・・参考事例ベンチマーク(気仙沼ニッティング)

関係性マーケティング戦略⇒企業と消費者をインタラクティブ(双方向)にコミュニケーション(共感・協働)  
絆の構築、双方向、長期的 Win-Win の関係

結論⇒顧客ロイヤリティ戦略

=== ワクワク系マーケティング「価値創造の思考法」・・・別紙参照

### 第3章「仕事と人間」54P

仕事とは何か・・・一般的かつ客観的な存在。課題である。⇒システムアプローチ適用可能！

- ①分析＝基本的な作業を明らかにし、論理的な順番に並べる
- ②プロセスへの総合＝一人ひとりの仕事を生産プロセスに組み立てる
- ③管理の為の手段を組み込む＝必要な水準にプロセスを維持するために、フィードバックの仕組みが必要

#### 11仕事の生産性(62p)

生産性向上の条件・・・自己実現

- ①分析＝仕事に必要な作業と手順と道具を知らなければならない。
- ②総合＝作業を集めプロセスとして編成しなければならない。
- ③管理＝仕事のプロセスの中に、方向付け、質と量、基準と例外についての管理手段を組み込む。
- ④道具＝

成果を中心に考える・・・**成果すなわち仕事からのアウトプットを中心に考えなければならない！**  
技能や知識など仕事へのインプットからスタートしてはならない。＝それらは道具にすぎない。  
**体系的な方法論を適用することによって、仕事の生産性をあげた！**

#### 14「人は最大の資産である」(79p)

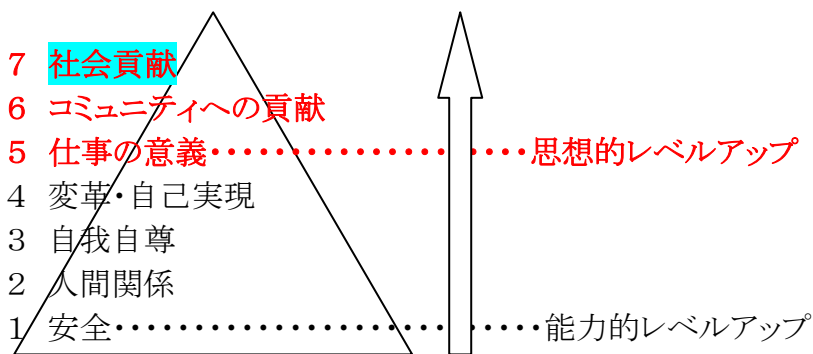
誤解と恐れ・・・その主たる原因は権限と権力の混同である。

**「組織の違いは人の働きだけである」** 現実には人を資源としてではなく問題、雑事、費用、脅威としている。

実行 ①その第1は、仕事と職場に対して、「**成果と責任**」を組み込むことである。

②さらに、**共に働く人たちを生かすべきものとして捉えることである。**

③最後に、**強みが成果に結び付くように人を配置することである。**



人的資源⇒社員は「**同志**」＝「**縁**」を大切に！（価値観を共有することが絶対条件）＝**大家族主義**

#### 組織として機能する条件（バーナード）

第1に「共通の目的」

第2に「共働の自発性」

第3に「コミュニケーション」…**目的を達成するための条件（環境衛生要因：不満足解消）**

## 第4章「社会的責任」84P

### 社会の問題は機会の源泉である(97p)

変化をイノベーションすなわち新事業に転換することは、組織の機能である。

企業の健康はマネジメントの責任である。

### 能力と価値観による限界(101p)

特に組織は、自らの価値体系に合致しない課題に取り組むことを避けなければならない。

熟練や知識は容易に手にできる。だが価値観を変えることはできない。

自らと自らの組織に欠けている能力が何であるかを知る必要がある。

### 19プロフェッショナルの倫理—知りながら害をなすな！

#### 企業倫理以前の問題

第1は、単純な日常の正直さ(人間行動の一般的なルール)

第2は、人間としての美意識の問題

第3は、地域社会の活動

#### リーダー的地位にあるものの責任

プロフェッショナル＝権限と同じだけ義務も与えられている(責任)

#### 知りながら害をなすな

最善を尽くす約束＝自立性(公的な利害によって動くこと)

———誰の立場・視点か？

#### アメリカの社会的病い＝所得格差拡大との印象

致命的なことは、不平等化の錯覚である。原因の根本は税法にある。

(竹内日祥上人の経営人間学講座より)「近代工業文明社会」から「近代サービス文明社会」への転換  
「量の経営」から「質の経営」

量の経営			質の経営		
複合・拡大による大量生産	同質に対する積極的な受容	均質に基づく安定性の確立	選択と集中による戦略化	異質に対する積極的な受入	矛盾と対立を関係的共存へ
消費の拡大 市場の拡大	内と外。敵と味方、閉鎖系差別	画一性に基づく標準化徹底	部分最適から全体最適転換	統合による開放系の組織化	多様性に基づく自己組織化の尊厳
大量情報収集による分析思考	スペシャリストとしての技術指導	定量的思考による支配・従属的關係	情報を喜捨する戦略的思考へ転換	プロフェッショナルとしての人材育成	関係的思考による協働・共存的関係
オペレーション・マネジメント			バリュー・マネジメント		
生産性・売上げ・市場占有率			イノベーション・顧客満足度		
能率性と効率性の合理的・認識論的訴求 客観的情報分析に基づく数値管理			革新性・創造性の自己実現的訴求 思考・コンセプトに基づく商品価値創造		

### 21世紀のキーワード「少子高齢化」と「知識社会」・・・2020～2030年が区切り

20世紀型	資本 供給サイド 提携・取引	生産量の拡大 効率 販売による利益	組織に従属・正社員 円錐型組織 スペシャリスト	核家族化 良くて安い 子供教育	規制 保護
21世紀型	知識(希少) 購入サイド 外部パートナー	質の向上 効果 購入による利益	対等な関係・契約 分散・フラット組織 プロフェッショナル	中高年向け 付加価値 継続教育	競争 自由

## 天職を見つける

心理学者のマズローは、「どんな人にも起こり得る最高の運命、最高にすばらしい幸運は、情熱的にやりたいと思うことをして報酬がもらえることだ」と言っています。

ただ、どういった仕事がこの「最高にすばらしい幸福」をもたらすのかを見出すのは、簡単なことではありません。ここでは、人間と仕事の関係を検証する研究を見てみましょう。

心理学者のエイミーと仲間の研究者たちによると、

人は仕事を「労働」「キャリア」「天職」の3つのうちの1つとして捉えているといいます。

「労働」は基本的に退屈なものであり、個人の充足感よりも金銭的な報酬に関心がおかれています。

朝、仕事に行くのは「そうしたいから」というよりも、「そうしなければいけないから」です。

仕事を「労働」と捉えている人たちは、仕事に対して給料以外には、何の期待も抱いていません。

そして金曜日の夜や休みを心待ちにしています。

それに対して仕事を「キャリア」と捉えている人たちは、お金や昇進といった外的要因や、権力や特権を獲得することが働くための主な動機となっています。

彼らは出世して職業上の階層を上がっていくことを望んでいます。

助教授から終身在任権を持つ教授になること、教師から校長になること、副社長から社長になること、編集長のアシスタントから編集長になることを望んでいるのです。

働くことを「天職」と感じている人々にとっては、働くこと自体が目的です。

給料や昇進もたしかに重要ですが、**これらの人たちは働きたいから働いている**のです。

自己の成長や向上などの内的な動機付けから仕事をし、精神的にたいへん充実しています。

彼らの目標は自分の欲求に深く根ざしています。

やっていることに情熱を持ち、仕事から大きな充足感を得ています。

仕事は退屈なことではなく、特権だと考えているのです。

あなたは仕事を「労働」「キャリア」または「天職」のうちのどれと捉えていますか？

過去の仕事についても同じことを考えてみてください。

### MPS質問に答える

①MEANING(意義)私にとって意義あることは何だろう？ 何が私に目的意識を与えてくれるだろう？

②PLEASURE(楽しみ)私にとって楽しいことは何だろう？ どういうことをしていると楽しいのだろうか？

③STRENGTH(強み)私の強みは何だろう？ 何が得意だろう？

これらの質問に答えることによって、天職とは何かというマクロな視点で人生を捉えることができると同時に、日々の生活でどうしたいかというミクロな視点でも人生の道のりを考えることができます。

「ハーバードの人生を変える授業」タル・ベン・ハヤハー 大和書房より参照

### <経営のヒント>

幸せという「究極の通貨」を稼ぐには？

毎週できることで、あなたに最高の幸せと満足感を与えてくれる活動を5つ選んでリストを作ってみましょう。そうした活動をするために、いまきちんと時間を使っているでしょうか？

又、こうした活動をするのに週当たりいくらお金がかかるかを見積もって下さい。

あなたにとって価値がある活動の多くには、実はお金はかからず、時間以外のものは必要ないということに気がつくかもしれません。

「お金に価値があるのは、私たちがお金が過大評価される世界に住んでいるからである」H・L・メンケン

### 論語

「吾れ十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳従う。

七十にして心の欲する所に従って、矩をこえず。」